

トルコギキョウの 側枝先端部摘芯による開花調節

福島県農業試験場 会津地域研究支場
平成14年度福島県農業試験場試験成績概要

1 部門名

花き—トルコギキョウ—生育調節
分類コード 05—19—16000000

2 担当者

小林祐一・菅野 清

3 要旨

トルコギキョウの秋出し栽培は、夏越しの栽培であるため、高温、長日などにより早期開花したり、切り花長が短くなりやすい。そこで、摘芯による開花調節や品質向上について検討した。

- (1) 摘芯をすると3～4週間の収穫遅延がみられた。
- (2) 摘芯をすると草姿は乱れた。
- (3) 中晩生種を用いた6月下旬～7月上旬定植の作型で摘芯を行う晩限は、収穫割合からみて主茎・止め葉節が8月中旬、側枝先端部が8月下旬と考えられる。
- (4) 上位規格品は、側枝先端部の摘芯が主茎・止め葉節の摘芯より多かった。
- (5) 切り花長80cmを目標とし側枝先端部の摘芯を行う場合、摘芯時の草丈は、出蕾1週間後では50cm、出蕾2週間後では60cm程度必要であった。

以上のことから、トルコギキョウの秋出し栽培における摘芯は、3～4週間収穫遅延するため開花調節には有効であり、摘芯の部位は草姿や出荷規格別割合からみて側枝先端部が良かった。側枝先端部の摘芯を行う場合、摘芯晩限は8月下旬と考えられ、目標切り花長を出荷規格2L級の80cmとすると、摘芯時の草丈は出蕾1週間後で50cm、出蕾2週間後で60cm程度必要であった。

4 その他の資料等

なし